

令和5年10月4日


大山町議会議長 米本隆記 様

大山町議会 広報常任委員会 委員長 小谷英介

令和5年大山町議会議員研修報告書

1	日時	令和5年9月27日(木)～28日(金)
2	研修地	茨城県取手市、埼玉県寄居町
3	研修内容	(1) 取手市議会視察 オンラインを活用した広報広聴など、議会改革度調査ランキング全国1位の取り組み (2) 寄居町議会視察 全国1位の議会だよりの作り方

4	研修概要	取手市議会視察 ～オンラインを活用した広報広聴など、議会改革度調査ランキング全国1位の取り組み～ <広聴活動編> <u>市民との意見交換会：新しい形の対話</u> ・ 平成30年度からの変革：報告会から対話重視へ。ZOOMの活用、複数会場での同時進行。 ・ 例：令和5年5月13日の意見交換会 テーマ1：フリーテーマ テーマ2：投票率向上への期待 ◇ 参加状況：市内3会場、オンライン。議員24名が各所に分散。 ◇ 会場参加：33名(車座方式) ◇ オンライン参加：8名(市外からも参加) ・ 注目ポイント： ◇ オンライン活用で新しい層が参加。 ◇ 知り合いを無理に誘わない方針。 ◇ 市民以外もオンラインで参加可能。
---	------	---

4	研修概要	<p><u>中学生との協働：議会への関心を育む</u></p> <p>議会改革ランキング1位。しかし、投票率は40%。 →若年層へのアプローチも必要。中学生議会での関心育成へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工夫のポイント： <ul style="list-style-type: none"> ◇ 教室内でクラス代表を選抜。 ◇ 残ったメンバーはオンライン視聴と投票。 ◇ 国語の授業としても実施。 ・ 成果： <ul style="list-style-type: none"> ◇ 中学生議会前後のアンケート実施。 ◇ 議会への関心が大幅アップ。 <p><議会だより編></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウェブ版を中心にした経緯 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 全戸配布が難しくなった。 ◇ 全戸配布をやめ、概要版を主要拠点での配布。 ・ 作成プロセスでAIを活用 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 一般質問の要約にCHATGPTを活用。 ◇ 人の目による確認と修正。 <p><オンライン委員会編></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タブレット導入後、オンライン会議を本格実施。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ オンライン委員会実績：令和2年6回、令和3年38回、令和4年17回、令和5年2回。  <ul style="list-style-type: none"> ・ 補足： <ul style="list-style-type: none"> ◇ オンラインのみの実施はなし。 ◇ 急なオンライン申出は、委員会の1時間前まで対応。 ◇ オンラインでの採決・討論も実施。
---	------	--

4	<p>研修概要</p>	<p><その他編></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議会会議録視覚化システム。 ・ 女性議員による議会改革特別委員会の取り組み など <hr/> <p>寄居町議会視察</p> <p>～全国1位の議会だよりの作り方～</p> <p><u>議会だよりの方針</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取材力を強化し、広聴力や議員力を向上させる。 ・ 議論の結果だけでなく、経過も掲載する。 ・ 町民の掲載により、家族などの読者が増加。現在 825 人を掲載。 ・ 「広報を突破口とし、多くの議会改革を実施してきた。」 ・ 「広報が変われば議会が変わり、議会が変われば行政が変わる。」 <p><u>大山町議会だより 73 号へのフィードバック（要点）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表紙は素晴らしい。 ・ 特集の見出しは短く、読者に伝わりやすくする。フォントにインパクトを持たせる。 ・ 委員会報告には写真を追加。特に老朽化した公共施設の写真を掲載。 ・ 質疑討論ページのタイトルや見出しを改善。具体的な内容を見出しにする。 ・ 一般質問ページは多い。基本的には個人報で対応し、特集を優先する。 ・ 「議員の仕事って何してるの？」ページのクオリティ向上。町民に係するトピックを掲載し、町民の声を取り入れる。 ・ 背表紙などは文字が多い。文字数を減らしてシンプルにする。
5	<p>各委員が学んだこと、今後のアクション</p>	<p>【近藤】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 取手市のように、議会が事務局としっかり連携し、積極的に議会改革を行っていく姿勢を模範に、本町議会としての取り組みを進めたい。 ◇ 寄居町は、町民目線、読者目線に徹底してこだわっており、その姿勢をお手本にしていきたい。 <p>【吉原】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 読まれない議会だよりは意味がないとの編集方針の重要性。 ◇ キャプションは記事の補完だけでなく、町民の心を引きつける役割が

5	各委員が学んだこと、今後のアクション	<p>あることを再認識。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 良い議会だよりは良い議会に宿るとの考え。議会トップ、広報委員、事務局、全議員との連携の重要性を学んだ。 ◇ 議会改革と広報は密接に関連し、内容の充実度が影響する。 <p><u>今後のアクション</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 記事のキャプションをインパクトのあるものにし、町民に訴えるよう工夫する。 ➤ 議長との関係を強化し、連携を深める。 <p>【豊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 取手市議会はオンライン化や最新の web サービスを活用しており、その導入に向けた配慮が参考になった。特にオンラインでの委員会開催、採決、議会だよりの web 化、議事録の要約化、市民との意見交換会のオンライン参加などが挙げられる。 ◇ 取手市議会のベテラン議員の柔軟な姿勢が新しい取り組みを実現していることを知った。特に「まずやってみる」というモットーが印象的。 ◇ 寄居町では議会だよりの評価を受け、町民目線での取り組みや高度な共通認識を持つ委員の存在を感じた。 <p><u>今後のアクション</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ オンライン化のメリットを理解し、議会改革に取り入れたい。オンライン化は新しい可能性を提示するものと認識。 ➤ 取手市の視察対応の丁寧さや人とのつながりの大切さを学び、これを自身の人生にも取り入れたいと感じた。 ➤ 議会だよりの取り組みにおいて、寄居町との違いを明確にし、今後の議会だよりに反映させる予定。 <p>【大原】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 取手市議会のオンライン活用、特に意見交換会や中学生議会の取り組みが印象的。特に、中学生議会での執行部席に議員が座る取り組みや、女性議員による議会改革特別委員会の活動が注目点。 ◇ 寄居町議会の広報活動は、町民目線での取り組みが基盤にあり、その自由度の高さや住民の声を取り入れる姿勢が印象的。特に、議会だよりの内容やレイアウトにおける自由な紙面作りや、住民の声を常に取り入れる姿勢が学びのポイント。
---	--------------------	--

5	各委員が学んだこと、今後のアクション	<p><u>今後のアクション</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 両議会の先進的な取り組みを参考に、本町議会も議会改革を進める。 ➤ 事務局との連携を強化し、議会活動の質を向上させる。 ➤ 議長との連携もさらに強化していく。 <p>【池田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 取手市議会では、議会事務局と議員が同じ目線での連携を重視しており、そのチームワークの強さが印象的。特に、議長の役割がキーパーソンとしての重要性を感じた。 ◇ 寄居町議会の広報活動は、住民を中心とした取り組みが特徴。特に、住民の声を取り入れる姿勢や、議員目線ではなく住民が知りたい情報を中心に載せる姿勢が印象的。 ◇ 議会誌の作成に関して、どの内容にも取り組むことが可能であると感じた。具体的な紙面づくりを試してみたいと思っている。 <p><u>今後のアクション：</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 議会誌の内容やデザインについて、新しい取り組みやアイデアを試してみたいと考えている。 ➤ 住民との意見交換会や議会だよりの取り組みにおいて、住民目線を更に重視し、その内容を反映させることを検討したい。 <p>【西本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ リーダーの本気度が自治体の文化を形成し、継続していくことを取手市と寄居町の取り組みから学んだ。 ◇ 取手市元議長の言葉を通じて、議会事務局との連携の重要性を再認識。事務局とのコミュニケーションが議会の円滑な運営に繋がると感じた。 ◇ 寄居町の議会だよりの取り組みから、住民目線での情報提供の重要性を学びました。特に、住民が知りたい情報を中心に載せる姿勢や、町民の登場を増やす取り組みが印象的。 <p><u>今後のアクション</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 議会の目標設定を明確にし、その目標に向けて具体的な取り組みを進める。 ➤ 議会事務局との連携を強化し、定期的に相談やコミュニケー
---	--------------------	--

5	各委員が学んだこと、今後のアクション	<p>ションを取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 近隣の若手議員との交流を深め、共通の課題や取り組みについて情報交換を行う。 <p>【大森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 取手市議会では、IT時代に合わせたweb版議会報の移行と、それに伴う市民への配慮が印象的。オンラインを活用した意見交換会や中学生議会の取り組み、女性議員による議会改革特別委員会の活動など、新しい取り組みが目立った。 ◇ 寄居町議会では、広報委員会の自由度の高い誌面作りや、住民の声を重視する姿勢が印象的。一般質問に関する取り組みや考え方について、疑問を感じる部分もあった。 <p><u>今後のアクション</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 物理的条件が整えば、大山町でも住民との意見交換会をオンライン化を検討する。 ➤ 誌面での町民の登場を増やし、広報委員以外の議員の協力も求めて議会の可視化を図る。 ➤ 寄居町の一般質問の取り組みに疑問を感じ、一人当たり半ページの確保を重視する。
6	委員長総括	<p>【小谷】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 取手市と寄居町の議会は、市民の関心を引きつけるための革新的な取り組みを実施しており、特にオンライン活用や市民参加の方法において先進的な手法を取り入れており学びことが多い視察となった。また、両議会ともに議会改革の先進地であるにも関わらず、市民の政治への関心を引きつけることに課題感をもち、投票率の低迷などを気にしている点が印象的だった。 ◇ 大山町は小規模ながらも投票率が高く、担い手不足の問題は表面化していない。そのなかで、大山町における議会の広報活動は何のために行うのか。具体的にどこを目指すのか。目的や目標の再確認・整理が必要と感じた。 <p><u>今後のアクション（まとめ）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 広報活動の再設計: 大山町の広報活動の目的や目標を明確にし、町の実情やニーズに合わせて広報活動を展開する。 ➤ オンライン活用の検討: 取手市のようなオンラインを活用した取り組

みを参考に、大山町での導入を研究・実践する。

- 事務局との連携: 取手市や寄居町のように、議会と事務局の連携を強化し、より効果的な議会活動を目指す。

以上

